

大豆栽培管理情報 (第1号)

令和2年冬期懇談会資料 52～53 ページもご参照下さい。

令和2年4月10日
アルプス農協管内農業技術者協議会

栽培管理のポイント

- ◎排水対策の徹底により生育量を確保
- ◎積極的な土づくりと連作回避で生育を促進
- ◎確実な種子更新と種子消毒
- ◎面積に応じた適正な播種量

富山県産の「エンレイ」は、
莢がはじけにくい
「えんれいのそら」に
切り替わります！



1 排水対策

～ 播種前の排水対策の徹底！表面排水が最も重要！～

大豆栽培の基本は、排水の良い圃場づくりです。
排水不良の圃場では、湿害による出芽不良や生育抑制、雑草等の発生により収量の低下を招きます。また、適期の耕起・播種作業や培土作業等にも支障をきたしますので、**播種前に排水対策を徹底しましょう。**

＜排水対策のポイント＞

- ① 用水路や水口からの漏水をしっかりと防止する。
- ② 額縁排水溝の設置をしていない場合は、早急に実施し、圃場の乾きを促進する。
- ③ 額縁排水溝の手直しや、深く掘り下げた排水口への確実な連結など、速やかに排水ができるようにしておく。

額縁排水溝の設置は、
4月中に実施

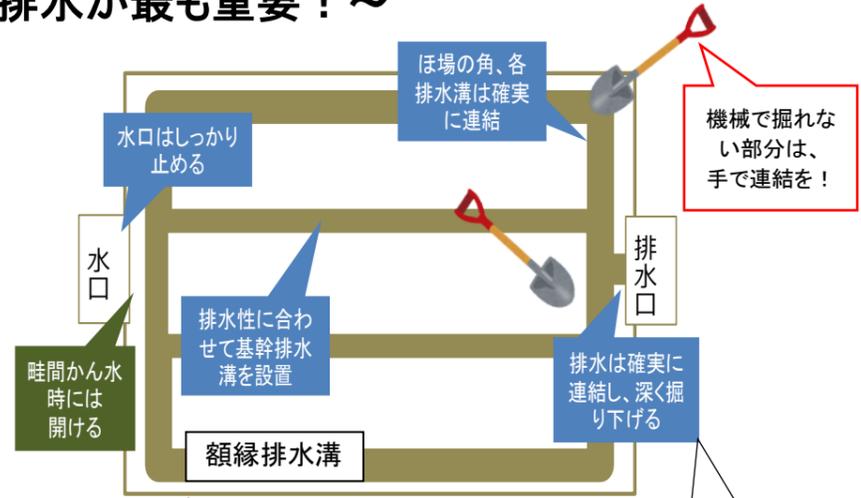


図1 排水対策のポイント



写真1 額縁排水溝の設置



写真2 溝と排水口の溝の連結

2 土づくり

～ 土壌 pH を 6.0～6.5 に改良、発酵鶏ふんで地力向上 ～

(1) 土壌 pH の改善(表1、図2)

土壌 pH が低いと、うまく養分の吸収ができず、生育が悪くなり、収量が低下します。**アルプス農協管内の土壌の 83%が pH6.0 を下回っています。pH6.0～6.5 を目標に粒状貝化石を施用しましょう。**

(2) 発酵鶏ふんの施用(表1)

発酵鶏ふんの施用により地力が向上し、収量の増加やしわ粒の発生低下が期待できます。**特に、大豆の作付回数が多い圃場では、必ず施用しましょう。**

表1 土づくり資材の施用量の目安

資材名	施用量 (kg/10a)
粒状貝化石	150～200kg
発酵鶏ふん	100～200 kg

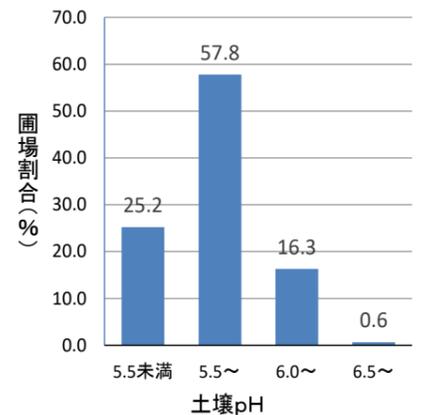


図2 JA アルプス管内土壌 pH(H30年調査)

3 種子更新と病害虫発生防止

～ 適正な播種量と初期病害虫の発生防止 ～

種子更新は、毎年行いましょう。また、種子伝染性病害や初期害虫の発生を防止するため、薬剤の種子塗抹を行いましょう。また、「えんれいのそら」は「エンレイ」に比べて百粒重がやや大きいため、表2を参考に、必要な種子量を確保しましょう。

表2 品種別、播種時期別の栽植本数及び準備する種の目安

品種	播種時期	目皿	目標栽植本数 (本/10a)	播種量 (kg/10a)
えんれいのそら	5月下旬～6月上旬	B-2	14,000～16,000	5.6～6.4
	6月中旬～(麦跡等)		16,000～18,000	6.4～7.2
	6月上旬～中旬	B-22	16,000～18,000	6.4～7.2
シュウレイ	5月下旬～6月上旬	B-3	12,000～15,000	4.9～6.2
	6月中旬		15,000～18,000	6.2～7.4

表3 大豆の種子塗抹処理剤と処理法

薬剤名	処理法	対象病害虫	留意事項
クルーザー MAXX	乾燥種子1kg当たり 原液8ml 塗抹	フタスジヒメハムシ アブラムシ類 タネバエ、ネキリムシ類 茎疫病、黒根腐病 紫斑病	塗抹後、種子を十分に乾かす。

注) 大粒の百粒重: えんれいのそら 35.8g/百粒、シュウレイ 37.0g/百粒
苗立率 90%として計算